

道内各地域のSDGsに関わる取り組み状況を“見える化”

道内各地域のジオパークがSDGsに対してどのような取り組みを行っているのかを試験的に“見える化”してみました。

この指標(ものさし)はSDGsの「ターゲット」をジオパーク活動に合わせて読み替えたもので、担当者による自己評価に基づいて、各地域の取り組み状況を5段階で色分けしたものです。

地域の強みや特性、取り組みの段階の違いなどを感じていただければと思います。

ぜひご自身の地域にも当てはめてみて、持続可能な社会づくりに向けて、より適切で、楽しい指標のアイデアがあれば、ご意見をお寄せください。

No	内容	洞爺湖 有珠山	アポイ岳	白滝	三笠	とかち 鹿追	十勝岳	カムイ ミントラ
目標1	あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせる							
1.1	生活保護世帯やひとり親家庭の増加、子どもの貧困などの地域課題を認識し、学習機会の提供や雇用の創出など、課題解決に貢献することを意識してジオパーク活動を展開している。							
1.2	貧困状態や社会的に弱い立場にある住民が、自然災害などの脅威から守られ、できるだけ早く回復できるよう、普段からコミュニティや仕組みづくりに取り組んでいる。							
目標2	飢餓を終わらせ、食料安全保障及び栄養改善を実現し、持続可能な農業を促進する							
2.1	地産地消を推進し、生態系を守り自然災害にも適応した持続可能な農業を、生産物の優先的な購入や地域内外への情報発信などにより支援している。							
2.2	「食育」を意識し、栄養の偏りや不規則な食生活の改善、家庭生活や事業活動での「食品ロス」の削減などに向けた取り組みを進めている。							
目標3	あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する							
3.1	運動・スポーツや禁煙、適正な飲酒の促進など、地域住民の健康増進を促す取り組みが活動に組み込まれている。							
3.2	高齢者の健康や自立を促す活動や、子育て支援と連動した活動に取り組んでいる。							
目標4	すべての人々への、包摂的かつ公正な質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する							
4.1	教育機関との協働により、学校教育においてグローバルな視点を組み込まれた地域学習の推進に取り組んでいる。							
4.2	社会教育において、ジオパーク活動について広く住民の学習を促すとともに、専門的な知識、知恵や地域内外の交流、協働を進める人材を育成している。							
目標5	ジェンダー平等を達成し、すべての女性及び女児の能力強化を行う							
5.1	普段はほとんど意識されない、健全な社会のあらゆる側面に不可欠なジェンダー平等について認識を深め、地域でそれに関わる気付きが生まれるよう活動に取り入れている。							
5.2	活動に関するいろいろな分野、段階での意思決定において、女性の参画と平等なリーダーシップの機会が確保されるように意識して取り組んでいる。							
目標6	すべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する							
6.1	水資源の重要性について、関わりのある地域住民の理解を深め、協働による管理が実現するように取り組んでいる。							
6.2	山地や森林、湿地、河川、帯水層、湖沼などの水に関連する生態系の保護・回復に取り組んでいる。							
目標7	すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な近代的エネルギーへのアクセスを確保する							
7.1	家庭などでの省エネルギーの推進や、地域での再生可能エネルギーの導入拡大に積極的に取り組んでいる。							
7.2	移動やガイドツアー実施などの際、モビリティの選択や乗り合わせなど効率的な方法により、温室効果ガス排出量の削減を意識して事業を展開している。							
目標8	包摂的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用（ディーセント・ワーク）を促進する							
8.1	若者や障がい者、海外からの渡航者など、多様な働き手が地域に受け入れられ、取り組み甲斐のある多様な働き方が実現するよう支援している。							
8.2	雇用創出や地域の文化振興、製品の販売促進につながる持続可能な観光業の発展に取り組む、観光業が地域にもたらす効果や影響を測定する手法を開発、導入している。							
目標9	強靱（レジリエント）なインフラ構築、包摂的かつ持続可能な産業化の促進及びイノベーションの推進を図る							
9.1	ICTやドローンなどをはじめとした先端技術を事業に取り入れ、地域住民などがこうした技術に触れる機会を設けている。							
9.2	企業や大学などと連携・協働を進め、持続可能な社会づくりに向けた技術開発や新しい産業の創出、イノベーションに取り組んでいる。							
目標10	各国内及び各国間の不平等を是正する							
10.1	日本列島北部周辺、とりわけ北海道の先住民族であるアイヌの人々が、民族としての誇りを持って生活することができ、またその誇りが尊重される社会が実現するよう、文化振興の支援や権利確立の支持などを行っている。							
10.2	進学者や就業者を含めた移住者が地域に対して愛着を持ち、コミュニティとのつながりが生まれるよう、機会の創出や情報の共有に取り組んでいる。							
目標11	包摂的で安全かつ強靱（レジリエント）で持続可能な都市及び人間居住を実現する							
11.1	地域の多様な関係者とともに、ジオパーク活動の観点(自然遺産や文化遺産の保護、都市部と農村部のつながり、防災・減災の推進など)から地域の将来像を描き、これを地域の計画に反映している。							
目標12	持続可能な生産消費形態を確保する							
12.1	地域資源が過剰に利用、消費され、地域が疲弊しないよう、地域全体で持続可能な生産や消費を考え、改善が図られている。							
12.2	地域住民や訪問者が資源の消費や製品の購入を行う際、できるだけ持続可能な社会づくりに貢献するものを選ぶように促している。							
目標13	気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる							
13.1	気候変動の緩和策・適応策について意識啓発・教育を進め、具体的に温暖化の防止や、気候変動の影響を軽減する行動をとるよう促している。							
13.2	気候に関連する水害や、火山噴火、地震などの自然災害に対して、地域のしなやかな回復力(レジリエンス)が強化されるよう普段から意識し、取り組みを進めている。							
目標14	持続可能な開発のために海洋・海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する							
14.1	海洋や沿岸、河川、流域の生態系を守る必要性について地域の住民や訪問者に周知啓発を図り、購買などを通じて持続可能な漁業を支援している。							
14.2	海洋汚染を自分たちの生活とつながりのある課題と捉え、浜辺での清掃活動や脱プラスチックの運動への参画などにより、海洋・海洋資源の保全保護に取り組んでいる。							
目標15	陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処、ならびに土地の劣化の阻止・回復及び生物多様性の損失を阻止する							
15.1	地域住民の参画による植林や外来種を駆除する活動や、そうした課題の背景を学び、現場で体験するエコツアーの実施などを通じて、生態系の保護・保全活動を実践している。							
15.2	生物多様性の重要性を意識し、普段から地産地消や必要なものに限った消費、省エネルギーの推進などに取り組んでいる。							
目標16	持続可能な開発のための平和で包摂的な社会を促進し、すべての人々に司法へのアクセスを提供し、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包摂的な制度を構築する							
16.1	市民の自治につながる、まちづくりへの市民参加や、多様な主体による協働の推進を意識して、ジオパーク活動を展開している。							
目標17	持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化							
17.1	「誰一人取り残さない(No one will be left behind)」という理念で表現されるSDGsの多様性、包摂性を意識し、大局的な視点からジオパーク活動における協働を進めている。							
17.2	SDGsにおいて重要な考え方である「バックキャストिंग」や、進捗状況の可視化・関係者との共有を可能にする「指標」について、将来像とともに地域版を考案し、事業展開に活用している。							

※指標(ver191023)作成:北海道地方ESD活動支援センター

凡例	しっかり取り組んでいる	まあ取り組んでいる	あまり取り組んでいない	取り組んでいない	該当しない
----	-------------	-----------	-------------	----------	-------